新たなる
連携へ

広域的連携

連携企画ツール「新連携シート」

ｷｰﾜｰﾄﾞ：社文系連携・地域振興・連携活動企画・学内発掘

本事例の関係者

大阪産業大学

文部科学省産学官連携
コーディネーター

シート活用で社文系連携を推進

【要約】
コーディネーターは、本年度の再任を契機に、シーズとニーズのマッチングを基本とした理工系の連携推進に加え、社文系による地域連携を新たな連携活動と位置づけ重点的に推進することとした。社文系の地域連携では、シーズとニーズが融合しており、大学と地域のどちらがニーズで、どちらがシーズであるか明確に分化しておらず、コーディネーターが何らかの仕掛けを構築して、両者の共同活動を推進しなくてはならない。コーディネーターはこの仕掛けを構築するための「ツール」として、コーディネーターが考案した「新連携メモシート」を活用することにした。
　この「新連携メモシート」により、これまで１６件の仕掛けを発想し、日々、その内容を推敲して、６件の連携活動を企画書にまとめた。「大阪産大の酒」・「だいとう検定」・「大阪ひがしん金融連携」・「大東スポーツクラブ」・「大産大フェア」が平成２０年度中に実施できることとなった。

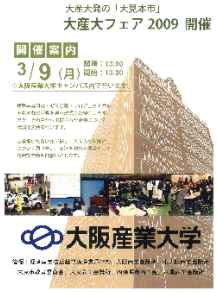
【きっかけ】
本学においては、従来からの理工系学部を中心とする連携活動は体制も整備され定着してきた。さらなる連携活動を推進するには、社文系の学部にも活動を拡大する必要性が大きくなった。コーディネーターの再任を好機として社文系学部による地域連携に活動を拡大することにした。

【段取り・ﾌﾟﾛｾｽ】
社文系連携活動はシーズとニーズが融合しており、コーディネーターが何らかの仕掛けを構築して、両者の共同活動を推進すべきであることに思い至った。この仕掛けを発想し具体化する「ツール」として「新連携メモシート」を作成・活用して連携活動の企画を推進することとした。「連携シート」は連携の仕掛けについての発想と企画推進の経過を記入するようにした。このシートは、本学の連携推進組織である「産業研究所」の所長・事務長との意見交換の有力なツールとなるだけでなく、コーディネーター自身の発想を推敲するための良きツールとなった。
　「プロフェッサービジット」「包括金融連携」「大産大の酒」「大産大フェスタ」「だいとう検定」「アパレル実務」「卒論公募」「スポーツクラブ」「逆インターンシップ」など１６件の仕掛けが発想できた。具体的推進企画としてまとめた６件のうち５件が年度内に実施できることとなった。

【成果・結果や活動後の変化】
「大阪ひがしん金融連携」（平成２０年11月調印）「大阪産大の酒」（平成２１年2月初出荷）「だいとう検定」（平成２１年2月第１回試験実施）「大東スポーツクラブ」（平成２１年3月発足）「大産大フェア」（平成２１年3月開催）

だいとう検定

大東スポーツクラブ



大産大フェア

地域への案内チラシ

新連携メモシート

テーマ	大阪産業大学ブランドの清酒 「大産大の酒」
概要	【趣旨】大学ブランドの清酒により大阪産業大学のブランドをＰＲ 　　夫婦とも大阪産大ＯＢの蔵本「白杉酒造」（京丹後市）と連携 【要領】大産大の酒　清酒「あうん」　吟醸酒「双獅子」 　　ラベルのデザイン等は大阪産大で作成 　　大学行事に優先活用 　　大学からの贈答品に利用
経緯	2008.01.24　産経新聞（兵庫版）に　共に大阪産大卒業の白杉悟さん智永子さん夫妻が 1777 年創業の老舗「白杉酒造」の１１代目に就任した旨　紹介記事有り 2008.05.21　真弓が是豊次長・小東事務長に提案 2008.08.04　大学当局（理事長　学長　事務長）に内容説明　賛同を得る 2008.08.21　白杉酒造（京丹後市大宮）訪問　小東事務長と同行 　　趣旨説明と連携の打診 　　未発売で仕込み中の新酒(720ml200 本分)あり　提供可 　　容器の形状・ラベル・化粧箱のデザインなど話し合う 2008.10.02　農援デザイン吉田先生とデザイン関連打合せ
終	

シート活用

平成２０年7月
　フォーム作成
平成２０年8月
　シート活用開始
活動実績
　「大産大の酒」
　「だいとう検定」
　「金融連携」
　「ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ」
　「大産大ﾌｪｱ」他

成功の事例

連携シートで学内合意と盛り上げ推進

●企画ツール「新連携シート」が巧く機能した

コーディネーターが新たに発想・工夫した企画ツール「新連携シート」は支援先の産学連携推進組織である「産業研究所」のトップとの「意見交換ツール」として巧く機能した。このツールによって、大学側の意向が把握でき、コーディネーターの思い至らなかった問題点を明確にすることができ、更なる企画案の掘り下げと推敲に大いに役に立った。

●企画案の推敲履歴を記録として残すことができる

このツールは、何時、どんな課題を解決するテーマとして発想したか、どのように深掘りしたか、誰と意見交換しどのようなコメントを得たか、といった企画段階での進捗状況が記録され、企画案の推敲過程が記録されるので、コーディネーターが気付かない検討不備な諸点を第三者が指摘するのに役に立った。

　また、プロジェクトの進行過程の記録にもなるので、推進過程の反省ツールとしても利用でき、コーディネーターのスキルアップツールとしても活かすことができた。

失敗の事例

独りよがりの企画も

●独りよがりの猪突は巧い推進が出来ない

コーディネーターとして「これならいける」と確信しても、素直に関係者との意見交換を行い、企画の推敲を重ねるべき場合も多かった。

　例えば、一つの企画案「問題解決プロジェクト」。支援先の産学連携推進組織である「産業研究所」のトップに説明したとき、企業側の意向を把握していないことに気付かされ、商工会議所の副会頭に相談した。結果、企業トップは自社の経営課題は熟知しており大学に課題発掘をやってもらう必要はない、欲しいのは、課題の解決策で、都度、大学に相談しても解決しない課題が残っているだけだということであった。結局、この企画は「ボツ」にせざるを得なかった。

●関係者の意見に傾注し素直に企画を

コーディネーターは猪突する前に、常に素直な心で、関係者の意見に傾注し、自制に心がけることが大切であることを悟った。

産学官連携の新たな展開に向けた提言

コーディネーターは情報感度を常に高く

●新たな連携活動を目指して

新たな連携活動を推進するために、コーディネーターは情報感度を研ぎ澄まし、どんなことにも新たなプロジェクトの企画にピンとくるような感性を持っていなくてはならない。

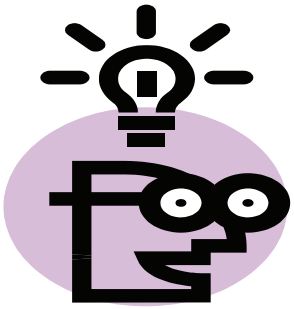
●関係者とのフランクな意見交換と素直な心で

独りよがりのプロジェクト企画を避けるため、コーディネーターは関係者との率直な意見交換と素直な心を、常々心がけるべきである。

●モノづくりはその道の常識が不可欠

常に新たなプロジェクトの企画を推進するために、コーディネーターは好奇心を失わず、貪欲に自分の枠の外にはみ出し、自己の拡大に心がけなければならない。

新たなる
連携へ



アッ　これだ！

成功と失敗の分かれ道

企画ツールの活用により、大学・地域住民・企業など関係者の広いコンセンサスを得ることができ、地域への貢献に寄与できた。

☆ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの一言

情報感度を研ぎ澄まし、発想したテーマを記録にとどめ、独りよがりになることなく、柔軟かつ広範な関係者との意見交換から推進企画を深掘りし、地域社会に役に立つことがコーディネーターの使命である。

本件に関する連絡先：sangaku@cnt.osaka-sandai.ac.jp